



女性の翼

返還後の香港・中国を視察

女性の海外視察研修（女性の翼）が、10月12日から15日まで28人が参加して、返還後の香港と中国を視察しました。

香港では、郊外に新空港を建設中で、この空港にアクセスする青馬大橋、返還式典の行われたコンベンション&エキジビジョンセンター、市民の大多数が住んでいる高層アパート等を、中国の経済特別区の深圳では、発展著しい街並みと生活市場を視察しました。

異国の文化、歴史、生活に触れながら視野を広め、和気あいあいのなか、すばらしい研修となりました。

両手を広げ世界に翔く



長 田 勝 子 (長塚)
団 吉 田

私たち女性の翼参加者28人は、香港3泊4日の研修旅行に朝7時光町を後に成田空港へと出発しました。

1日目は、専用バスで九龍を観光、さまざまな土地の利用と、そびえ立つマンション（高層住宅）、今建設中の建物ではコンクリートを囲んだ竹の足場が緑一色で網の目のように組まれた竹が車窓から私の目を止めました。城をかたどるかのように見えたアバティーン（水上レストラン）は、いたる所にライトがついて、夜景を鮮やかに照らし私たちを歓迎してくれました。

世界三大夜景に入る香港のビクトリアピークからの夜景は晴天に恵まれ、目を疑うほどのすばらしさでした。

2日目は、返還式典の行われた香港コンベンション&エキジビジョンセンター（HKCEC）を視察、1988年11月にオープンして40万9千㎡の広大な敷地に、HKCECを中心に「グラランド・ハイアット・ホテル」「ニューワールド・ハーバービュー・ホテル」の宿泊施設や各種レストランを併設して、「集う・泊まる・食べる」機能を集約した巨大複合体を形成していました。

世界最大のガラス製カーテンウォールと最新の設備が特徴のHKCECは、最高8千人を収容できる「エキジビジョンホール」から国際会議、展示会などあらゆるタイプのイベントが対応できるそうです。

この会場は、海鳥の翼をかたどった近未来的な外観が特徴で、新しいランドマークとして世界の注目を浴びているそうです。

一般住宅視察は、狭い路地通りにコンクリート建の25階のマンションがありました。各部屋ごとに玄関は鉄棒で作られたドアと、その奥に木のドアが2重になっていて両ドアに錠がついて、香港では各住宅が盗難予防を重視して建てられていました。

香港は、上・中・下流との生活環境の違いが激しく文化が遅れている事がありありと感じさせられました。

現在香港には、日本人3万人が住んでいて、生活は日本文化を中心に行われているとの事でした。

3日目、深圳都市事情視察をしました。日本の工場が56社あり、一番古い工場は伊藤忠で、これらを見ても日本の文化が香港中国に入っていることがわかる。

工場で働いている平均年齢は26歳、385万人がいます。深圳へは国籍が同じでも証明書、パスポートがないと

入る事ができません。

高層ビルは20階建が600位あり、地震がなく土地もない為、すき間なく並んでいて、どのビルも7階まではエレベーターがなく、7階からは家賃が高くなっていて中流以上の人々が生活している。

車窓から見る町は、歩く子供から大人まで手に水の入ったボトルを持っていて、これらを見て、文化歴史、生活環境の違いを見出し少しでも世界の事に目を向けられるようになりまし。

またたく間に4日間の研修旅行を終わり、団員一同事故もなく無事帰国できました。お世話くださいました町関係者の皆様に心よりお礼申し上げますとともに、このすばらしい翼を両手に広げ、これから女性の翼を世界にむけて翔いていただきたいと思ひます。

